

◆【全国発信記事】 沖縄支部

— 海底火山の噴火が原因 — 大量の軽石が沖縄県や鹿児島県奄美地方の島々に漂着

さまざまな軽石が漂着

本年8月、小笠原諸島の海底火山（福德岡ノ場）が噴火し、大量の軽石が風と海流に流され、10月に入り沖縄県各地の沿岸に大量の軽石が漂着している。軽石の大きさは、小さいものは1ミリメートル以下のものから、大きいものは10センチメートル以上のものもある。漂着しているものの多くは5ミリメートル以下程度の小石で、石の性質は非常にもろく、大きい石でも簡単に砕けるほどである

吸水口から取り込んだ軽石が 船舶のエンジントラブルの原因となり、航行に支障

現在、この沿岸の海面や海中を漂う軽石が、漁船をはじめとする沖縄沿岸を航行する船舶のエンジンの吸水口などの海水取り入れ口から、海水と同時に吸引されてしまい、エンジントラブルの原因となり、船舶の航行に支障をきたす事態となっている。大量の軽石が漂着している漁港や海域では、小型船や水上バイクなどのレジャー船が運航できない問題も発生している。

沖縄支部が担当している共和マリン・サービス株式会社の船舶係留地にも軽石が大量に漂着し、通船ポートが動けずに、業務に就くことができないという問題が発生した。

この問題に対して行政機関も動き出し、軽石の撤去作業には災害復旧事業が適用されることが検討され、玉城デニー沖縄県知事も緊急対策チームを設置し、早急な対応を進めている。

10月末時点では、沖縄最大の港である那覇港近くでも軽石は確認され、周辺海域では海上を漂う大量の軽石に、漁船や小型船の船員や関係者が不安を募らせている。沖縄支部では、多くの近海マグロはえ縄漁船を担当しており、組合員の職場への大きな打撃となることも予想され、予断を許さない状況となっている。

今後も、関連各社や現場組合員と連絡を取り合い情報共有を徹底しつつ、船舶の運航に支障をきたさないよう対応を図っていく。

※小笠原諸島の硫黄島の南にある海底火山（福德岡ノ場）で、8月13日に規模の大きな噴火が発生し、大量の噴出物によって2つの島ができた。

気象衛星「ひまわり」や、300キロほど離れた父島からの観測などを基にした噴火規模の分析では、マグマの噴出量は、およそ3億トンから10億トンとみられている。